

平成31年度 学校評価実施報告書

京都市立烏丸中学校

教育目標

- 「生きていく力」の育成
- ◎人権を大切にし「五つの心」「JAS」を実践する力
- ◎意見を交流し、仲間と共に学びを深める力
- ◎健康を保持、増進する力

年度末の最終評価

自己評価	<p>教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し</p> <ul style="list-style-type: none">・「五つの心」「JAS」を合言葉に豊かな心を育み、テスト前週間や文化祭以降の3年生の日常生活で「学習をはやらす」を合言葉に学力向上に取り組んできた。その結果、生徒の意識は高まり、3年生では休憩時間でも学習する姿が見られ、互いに教え合ったりする様子も窺えた。・文化祭、体育祭、伝統文化教育で自己有用感を育み、達成感を高めることができた。生徒が生徒をより良い姿に変えていく、そのような取組ができた。今後は、道徳授業を充実させ、全校道徳の機会なども設けたい。また、道徳教育や人権教育の工夫により、他者を思いやる心や平和を願う人権意識を高めていきたい。・支援の必要な生徒に対して、学年を超えて多くの教職員で見る体制ができた。教職員からも、「学年の壁を越えて、学校全体で生徒を見ていくのが、本校の強みである」という発言が見られ、意識が高まってきた。生徒の心の背景を理解した生徒指導も浸透しつつあり、今後は、授業力の向上においても、意見交換をし、学校全体で授業力向上に努めていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none">・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校関係者評価会議はできなかったが、中止の連絡をする中や、地域での顔を合わせる場面で、「五つの心」「JAS」といった取り組みは、学力の向上だけでなく、心に訴える取組であり、今の生徒には欠かせない取り組みであるので、継続してほしいという意見を頂いた。・また、地域の特色を踏まえた上で、小規模校の特徴をうまく生かした取り組みがなされている。校門周りから、中庭も含め、校内美化ができており、子どもたちと教職員、地域の園芸ボランティアの方が頑張っていることが分かるというご意見を頂いた。・今後も生徒を大切にした教育実践を継続してほしい。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	令和元年10月31日	学校運営協議会
最終評価	令和2年 2月28日 コロナウイルス感染拡大防止対策 中止	学校運営協議会 コロナウイルス感染拡大防止対策 中止

(1) 「確かな学力」の育成に向けて 『学力向上プラン』

重点目標

- ★ 小規模校・少人数の利点を最大限に生かす
- ★ 地域の伝統的・文化的な環境を活用する
- ★ LD等支援の必要な生徒の学力向上

具体的な取組

- ・学力に課題のある生徒やLD等支援の必要な生徒に対し、総合育成支援委員会およびケース会議を持ち、具体的な支援の方法について検討し、組織的な取り組みを進める。
- ・ジョイントプログラムおよび学習確認プログラムを教科の学習サイクルに位置づけ、家庭学習の課題と繋げることにより、家庭学習の定着を図る
- ・言語活動を活用した教科学習について授業研究を行う。また、教師間のグループ研修を実施し、従来の学習アンケートに基づいた授業の視点をもとに、各教科の“深い学び”につながる授業の改善に活用する。
- ・伝統文化教育を学校行事や総合的な学習の時間、各教科と連携させ、系統的な実施を進める。
- ・3年生2クラスを3分割し少人数学習を行う。(社会・数学・英語)
- ・テスト前学習会を全学年実施し、補充的な学習を行う。

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・全国学力学習状況調査
- ・学習確認プログラム
- ・学習アンケート
- ・提出状況チェックシート
- ・生活アンケート
- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート
- ・進路希望調査
- ・教育相談

中間評価

各種指標結果

- ・各教科の学習活動を、学習確認プログラムと関連付けを重視しながら授業を進めており、予習シートや復習シートを活用した家庭学習の定着において一定の成果が見られる。しかし、授業での内容を自分なりに振り返り学習するといった主体的な学びといった点では不十分な点も多い。今後さらに深い学びへと発展させるための授業作りや家庭学習の課題作りが課題である。
- ・提出状況チェックシートの結果、未提出者が若干名いることも今後の課題である。
- ・3年生の全国学力学習状況調査の結果では、英語、数学ともに、平均指數を大きく上回る数値であった。
- ・3年生の5月の学習確認プログラムの結果では、国語、英語ともに平均指數を大きく上回る高い数値であった。その他の3教科も平均指數を上回る高い数値となっている。
- 2年生の7月の学習確認プログラムの結果では、国語が平均指數を上回る、やや高い数値であった

が、社会と数学が平均指数を下回る数値となった。平均を下回る教科の正答率を見ると、非常に高い正答率の生徒と無解答が多くかなり低い正答率の生徒と二極化を示す結果であった。

1年生の4月ジョイントプログラムの結果では、数学が平均指数を大きく上回る、非常に高い数値であった。また、国語も平均指数を上回る、やや高い数値であった。

- ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「先生が授業を工夫すること」の項目は、1年生6ポイント・実現度86%，2年生5.3ポイント・実現度76%，3年生5.9ポイント・実現度84%と高い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「学力向上に向けた授業の工夫をしていること」の項目は、1年生5ポイント・実現度71%，2年生4.8ポイント・実現度69%，3年生5ポイント・実現度71%と、生徒評価と比較し、やや低い数値であった。
- ・3年生の進路希望調査の9月結果では、公立全日制普通科47%，専門学科17.6%，私立31.4%と昨年と比較すると、私立高校への進学希望が少し増えている。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・学習確認プログラムの結果では、どの学年も正答率は高い数値であるが、2年生をはじめ、どの学年においても、正答率の高い層と、苦手意識から解答を諦めてしまっている正答率の低い層がいる。正答率が高い生徒は、学習が定着し、より深く学びたいという意識が高く、学習を重ねる度に力をつけてきている。正答率の低い生徒は、基礎的な学習段階のつまずきがあり、苦手意識を払拭できずにいる。家庭学習を見ても、学習が苦手な生徒は、学習時間が不十分な生徒が多い。また、各学年にいる学習に支援を要する生徒への対応も、今後の課題である。
- ・学力向上に向けた授業の工夫では、生徒からの評価はやや高い数値であり、意見交換のできるグループ学習やペアワーク、発表の機会を増やすといった授業改善の成果は見られる。保護者の評価が、授業を受けている生徒より、やや低い数値なので、公開授業などの機会で、保護者の方に授業改善の取り組みを見て頂くことが必要である。

分析を踏まえた取組の改善

- ・各教科による授業と繋がる家庭学習課題の設定を行う。
- ・学習が苦手な生徒に対して、「自分で取り組み、自分でやり遂げる」といった達成感のある課題や家庭学習を設定する。
- ・各教科において、仲間と意見を交流するグループ活動や学び合い活動の充実と定着を図る。
- ・総合育成支援委員会を通し、支援を要する生徒の情報共有を徹底する。
- ・休日参観、オープンスクールの機会で、生徒同士の意見交流や積極的な発表の場を取り入れた授業を保護者の方に見ていただく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・進路希望調査
- ・教育相談
- ・進路相談会
- ・提出状況チェックシート
- ・学習確認プログラム
- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート

学校 関 係 者 評 価	学校関係者による意見・支援策
	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上に向けて、生徒が意見交流をしたり、発表したりするなどの授業改善や学力定着に向けた家庭学習の成果が現れてきている。学習が苦手な生徒に対して、さらに工夫が必要である。 ・3年生は、進路も関係してくるので、家庭と連携し、提出物の指導を徹底していく必要がある。 ・鳥丸中学校の特徴でもある小規模校の強みを出すこと、少人数による学習指導は生徒の学力向上に繋がっている。

最終評価

自己 評 価	中間評価時に設定した各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査 ・教育相談 ・進路相談会 ・提出状況チェックシート ・学習確認プログラム ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート

自己 評 価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	<ul style="list-style-type: none"> ・進路希望調査などから、1学期や2学期の時点では、前向きに進路を捉えられなかった生徒も、進路学習や教育相談、進路相談会を経て、自分の将来を考え、高等学校及び高等専門学校に全員が志望し進学した。 ・提出状況チェックシートでの提出指導結果、進路に向けて、学年末に向けて、若干の未提出者においても最終的に提出できるようになった。次年度は期限を守って提出することが指導の課題である。 ・2年生の1月の学習確認プログラムの結果では、国語、理科が平均指数を上回る、やや高い数値であった。数学が前回は平均指数を下回る数値であったが、今回は平均指数を上回る、やや高い数値となった。基礎基本の定着を図り、数学が苦手な層にアプローチした効果が表れた。社会は、若干平均を下回る正答率であるが、非常に高い正答率の生徒と無解答が多くかなり低い正答率の生徒と二極化を示す結果であった。 ・1年生の1月学習確認プログラムの結果では、国語、社会、数学、理科、英語の全教科が、平均指数を大きく上回る、非常に高い数値であった。しかし、学習に課題のある生徒は存在し、授業でのアプローチが必要不可である。引き続き、学習が苦手な生徒に対して個別にアプローチする授業を続けていきたい。 ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「先生が授業を工夫すること」の項目は、1年生 5.6 ポイント・実現度 80%，2年生 5.6 ポイント・実現度 80%，3年生 5.7 ポイント・実現度 81%と高い数値であった。 ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「学力向上に向けた授業の工夫をしていること」の項目は、1年生 5.1 ポイント・実現度 73%，2年生 4.7 ポイント・実現度 67%，3年生 5 ポイント・実現度 71%と、生徒評価と比較し、やや低い数値であった。 ・学力の定着に向けて、基礎基本を学ばせること、学習の苦手な生徒に授業内で個別にアプローチをすることで、学習の成果が表ってきた。また、授業では、生徒同士の対話を重視し、他者

	<p>の意見を聞いて、自分の意見を述べる授業展開が、本校の授業の特徴として浸透してきた。次年度も引き続き、対話型の授業を展開していきたい。</p>
学校 関 係 者 評 価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科による授業と繋がる家庭学習課題の設定を行い、保護者にも家庭学習の意図を理解していただけるようにする。 学習が苦手な生徒に対して、「自分で取り組み、自分でやり遂げる」といった達成感のある課題や家庭学習を設定する。 各教科において、仲間と意見を交流するグループ活動や学び合い活動の充実と定着を図る。 総合育成支援委員会を通し、支援を要する生徒の情報共有を引き続き徹底する。 来年度の休日参観、オープンスクールの機会で、生徒同士の意見交流や積極的な発表の場を取り入れた授業を保護者の方に見ていただき、懇談会などで学習の成果を説明していく。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校関係者評価会議はできなかったが、中止の連絡をする中や、地域での顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや生徒の学習成果を説明し、授業に集中している様子を伝えると、引き続き、小規模校の良さを活かして、手厚い学習を期待するというご意見を頂いている。

(2) 「豊かな心」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>人を思いやる心を培い、自分自身を大切にできるように、規範意識を高めけじめある生活を送る。</p> <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校生活目標のJ(時間)・A(挨拶)・S(掃除)を中心におき、生活目標として意識させる。 <u>五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）</u>が心の目標として生徒たちにも浸透してきているため、本年度は、烏丸中学校の伝統として誇りを持てるように意識させる。 生徒会執行部による全校集会などの運営や司会を行わせることで、自信をつけていく。 生徒会活動や教科授業などを通じて、「自分の考えを発表する」ことや、「自分以外の人の意見をしっかり聞く」ことなど、人との繋がりを通して、<u>自他ともに大切にする心</u>を育てる。 地域の文化や環境を肯定的にとらえ、<u>地域を愛する心</u>を育てる。 人権教育や道徳教育を通じて、豊かな感性と情操を育む。 行事などで成功体験を実感できる取り組みで、クラスや学年、学校の絆を高める。 携帯スマホ教室や非行防止教室、薬物乱用防止教室などで、規範意識を高める力を育てる。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価保護者アンケート 学校評価生徒アンケート 生活アンケート 道徳教育、道徳の時間のアンケート及び感想 教育相談
--	--

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値, 3.5 ポイントが中間, 1 ポイントが最小値）において、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の項目は、1 年生 4.8 ポイント・実現度 69%, 2 年生 5.2 ポイント・実現度 74%, 3 年生 5 ポイント・実現度 71% と比較的高い数値である。2 年生は、実現度が昨年後期の 67% から 74% に、3 年生では、昨年後期の 69% から 71% に上昇した。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分に自信をもつこと」の項目は、1 年生 4.3 ポイント・実現度 61%, 2 年生が 4.3 ポイント・実現度 61%, 3 年生が 4.4 ポイントと 63% とやや低い数値である。
- ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値, 3.5 ポイントが中間, 1 ポイントが最小値）において、「目指す子ども像『自信が持てる』について」の項目は、1 年生 4.3 ポイント・実現度 61%, 2 年生 4.8 ポイント・実現度 69%, 3 年生 4.7 ポイント・実現度 67% と生徒評価と比較し、保護者評価の方がやや高い数値であった。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は、1 年生 4.1 ポイント・実現度 59%, 2 年生 4.6 ポイント・実現度 66%, 3 年生 4.8 ポイント・実現度 69% と、伝統文化の取り組みを重ねて、学年が上がるに比例し実現度が上昇している。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は、1 年生 5.3 ポイント・実現度 76%, 2 年生 5.2 ポイント・実現度 74%, 3 年生 5.4 ポイント・実現度 77% と、高い数値であった。
- ・文化祭の 3 年生の人権劇を見た 1.2 年生の生徒が、感動し涙を流す姿が見られたり、体育祭の感想文で、3 年生や 2 年生の一生懸命に取り組む姿に、とても感動したと書いている生徒が多数おり、他者との繋がりの中で豊かな心を育むことができている。
- ・心の目標である五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）についての作文で、多くの生徒が、学校、家庭、地域での人との繋がりを、温かく感性豊かな言葉で書いていた。

自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none">・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の結果として、7 割前後の生徒が実感している。自己肯定感は、自らの存在意義を肯定できる感情であり、自己肯定感の高い生徒は、他人の存在意義も認めることができる。昨年より微増はしているが、引き続き、自己肯定感を高められるよう、教育活動に取り組むことが課題である。・文化祭の 3 年生の人権劇を通して、1. 2 年生が感動し涙を流す姿が見られた。生徒が生徒に人権を大切にする心、人と人が繋がる心の温かさや豊かさを伝えられていることは成果である。学年の垣根を越えて、生徒同士が温かい交流を深める鳥丸中学校独自の温かい校風を継続できるように努力を続けていく。・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分に自信をもつこと」の項目が、やや低い数値である。日本はこの項目が低い傾向にあることが指摘されているが、今後、引き続き実現度が増すような教育活動に取り組むことが課題である。・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の結果として、学年が進むにつれて、地域の伝統文化に触れ、地域に愛着を感じていることが窺える。本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを更に生徒の意識に深めていくように取り組みを続けていく。
------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・心の目標として「五つの心（素直な心、感謝の心、反省の心、互譲の心、奉仕の心）」、生活目標として「JAS（時間、あいさつ、掃除）」を合い言葉にして取り組んできた。生徒、保護者に浸透しており、鳥丸中学校の教育として定着していることは成果である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主性や積極性を育てるための取組として、生徒会を中心とした「あいさつ運動」の活性化や集会の企画・運営の推進。 ・文化祭や体育祭での活動で、生徒が体験した「人との繋がりによる心の温かさ・豊かさ」が、その他の教育活動でも継続して体験できるように、取り組みの工夫をする。 ・地域行事への積極的な参加や地域への貢献活動。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていく。 ・生徒会活動や文化祭、体育祭といった学校行事を通じ、上級生が下級生の良い見本となり、学校全体に温かい雰囲気が作られている。小規模校の利点を活かして、今後も豊かな心の育成に努めていくこと。 ・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目で、生徒評価がやや低い数値であるが、鳥丸中学校では、他校では味わえない多くの伝統文化学習体験を行っているので、今後、本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを更に生徒の意識に深めていくようにすることが課題である。
最終評価	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート
自己 評 価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「自分の事を大切な人間だと思うこと」の項目は、1年生5.0ポイント・実現度71%，2年生5.3ポイント・実現度76%，3年生4.9ポイント・実現度70%と比較的高い数値である。1年生は、実現度が前期の69%から71%に上昇した。 ・学校評価生徒アンケートにおいて、「自分に自信をもつこと」の項目は、1年生4.4ポイント・実現度63%，2年生が4.6ポイント・実現度66%，3年生が4.5ポイントと64%とやや低い数値であるが、前期より数値は上昇した。特に2年生は、前期61%から後期66%に上昇した。 ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7ポイントが最大値、3.5ポイントが中間、1ポイントが最小値）において、「目指す子ども像『自信が持てる』について」の項目は、1年生4.8ポイント・実現度69%，2年生4.8ポイント・実現度69%，3年生4.7ポイント・実現度67%と生徒評価と比較し、保護者評価の方がやや高い数値であった。1年生保護者は、前期61%から後期69%と比較的高く上昇した。 ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は、1年生4.3ポイント・実現度61%，2年生5.2ポイント・実現度74%，3年生5.4ポイント・実現度77%と、伝統文化の取り組みを重ねて、前期より後期の方が上昇した。特に学年が上がるに

	<p>比例し上昇している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケートにおいて、「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は、1年生5.5ポイント・実現度79%，2年生5.1ポイント・実現度73%，3年生5.3ポイント・実現度76%と、高い数値であった。特に1年生保護者は、前期76%から後期79%に上昇した。 ・1年間の授業や学校での取組、学校行事を経て、五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）が心の目標として生徒たちにも浸透してきた。来年度も鳥丸中学校の合言葉、伝統として、誇りを持てるようにしていきたい。 ・生徒会活動や教科授業などを通じて、「自分の考えを発表することや、「自分以外の人の意見をしっかりと聞く」ことで、人との繋がりを大切にし、自他ともに大切にする心が育ってきた。 ・伝統文化学習を通して、地域の方に指導を受ける中で、地域の文化や環境を誇りと捉え、地域を愛する心が育ってきている。次年度も、伝統文化学習に力を注ぎ、地域とのつながり、伝統文化とのつながりを強化していきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自主性や積極性を育てるための取組として、生徒会を中心とした「あいさつ運動」の活性化や集会の企画・運営の推進及びPTA（保護者）とのあいさつ運動の連携強化。 ・次年度も文化祭や体育祭での活動で、生徒が体験した「人との繋がりによる心の温かさ・豊かさ」が、その他の教育活動でも継続して体験できるように、取り組みの工夫をする。また、PTAの伝統文化学習への参加や参観を企画する。 ・地域行事への積極的な参加や地域への貢献活動。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校関係者評価会議はできなかったが、中止の連絡をする中や、地域での顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや行事の様子を伝えると、地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていくことが重要であるとご意見を頂いた。 ・生徒会活動や文化祭、体育祭といった学校行事を通し、学校全体に温かい雰囲気が作られている。小規模校の利点を活かして、今後も豊かな心の育成に努めていくことと、引き続き、本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを生徒の意識に深めていき、中学生が地域行事に参加できるようにすることのご意見を頂いた。

(3) 「健やかな体」の育成に向けて

	<p>重点目標</p> <p>健康を保持増進し、安全な生活を自主的に送ろうとする意識を高める。</p>
	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活習慣アンケートの実施 ・薬物・非行防止教室の実施 ・避難訓練等を通じて防災・安全に対する意識を高める ・性に関する指導の実施 ・食教育の実施 ・健康教育（喫煙・アルコール・薬物など）の実施 ・リスクマネジメント研修と危機管理マニュアルの見直し

- ・ 地域防災の拠点として、地域や小中が連携した学校のあるべき姿の模索
- ・ 教育相談の実施
- ・ 安全点検の実施
- ・ 健康観察の実施

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・生活アンケート
- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート
- ・各種教室（スマホケータイ、薬物乱用防止、非行防止）後の生徒感想アンケート
- ・教育相談

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値、3.5 ポイントが中間、1 ポイントが最小値）において、「悩みを相談できる場が学校にあること」の項目で、1 年生 5.2 ポイント・実現度 74%，2 年生 5 ポイント・実現度 71%，3 年生 5.5 ポイント・実現度 79% と各学年 7 割を越える実現度であった。
- ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値、3.5 ポイントが中間、1 ポイントが最小値）において、「子どもが悩みを相談できる場があること（カウンセラーなど）」の項目で、1 年生 4.9 ポイント・実現度 70%，2 年生 5.8 ポイント・実現度 83%，3 年生 5 ポイント・実現度 71% という比較的高い数値であった。特に 2 年生の保護者の数値が高かった。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1 年生 5.5 ポイント・実現度 79%，2 年生 5.2 ポイント・実現度 74%，3 年生 5.1 ポイント・実現度 73% と比較的高い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1 年生 3.9 ポイント・実現度 56%，2 年生 4.5 ポイント・実現度 64%，3 年生 4.5 ポイント・実現度 63% と 1 年生の保護者の実現度がやや低い数値であった。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「目指す子ども像『挨拶ができる』について」の項目で、1 年生 4.4 ポイント・実現度 63%，2 年生 5.3 ポイント・実現度 76%，3 年生 5.1 ポイント・実現度 73% と、小中連携で取り組む挨拶については、保護者評価は比較的高い数値であった。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・「悩みを相談できる場が学校にあること」の項目で、7 割を越える生徒が実感できていることは成果である。今後は更に、小規模校の特性を生かして、学年の枠を越えて、一人一人の生徒を学校の教職員全員で育てるという体制を構築していく。
- ・「部活動が盛んであること」の項目では、保護者は、1 年生時より、2・3 年生の方が高い数値になっている。生徒たちの活躍する様子や部活動での充実した話を聞くことが増えることで、健やかに活動ができていること、たくましく育っていることが実感できている。
- ・「目指す子ども像『挨拶ができる』について」の項目で、保護者評価が比較的高い数値であった。小中連携で、朝の挨拶運動をしたり、PTA や生徒会が一緒に挨拶運動をするなどの成果が学校評価の数値に出てきている。

	<ul style="list-style-type: none"> ・生活面での大きな乱れは見られないが、全体的に睡眠時間が短いといった現状がある。 ・健康教育のさらなる充実が必要である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学年の枠にとらわれず、今後も全ての生徒に全ての教職員で関わっていくスタイルを貫くことが重要である。そのためには、生徒の様子をしっかりと観察し、情報共有を行う。 ・「挨拶ができる」と実感する保護者の方が増えている現状であるからこそ、生徒たちが「心通う挨拶」ができるように、更に挨拶運動の取り組みを進めていく。 ・睡眠時間の確保のため、基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。 ・健康教育の充実に向け、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの健全育成に関する取組を推進していく。
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・生活アンケート ・各種教室後のアンケート <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「悩みを相談できる場が学校にあること」ということでは、些細な疑問や相談事を、PTAの親同士の繋がりでも、前向きに解決できるようにしていきたい。 ・小規模校の強みを生かして、思春期の生徒をよく見ていると思う。今後も、子どもたちの繊細な変化を見逃さずに指導をしていく。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・生活アンケート ・各種教室後のアンケート
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値、3.5 ポイントが中間、1 ポイントが最小値）において、「悩みを相談できる場が学校にあること」の項目で、1年生 5.5 ポイント・実現度 79%，2年生 4.6 ポイント・実現度 66%，3年生 5.5 ポイント・実現度 77% と結果であった。1年生は前期 74% から後期 79% に上昇したが、2年生の結果は前期 71% から後期 66% と下がっているので、2年生の時期の人間関係に目を向け、信頼関係を築く取組が必要である。 ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値、3.5 ポイントが中間、1 ポイントが最小値）において、「子どもが悩みを相談できる場があること（カウンセラーなど）」の項目で、1年生 5.1 ポイント・実現度 73%，2年生 5.1 ポイント・実現度 73%，3年生 5 ポイント・実現度 71% という比較的高い数値であったが、前期高かった2年生の保護者の数値が下っているので、2年生生徒と同様、生徒、保護者と連携し、2年生の時期の信頼関係づくりが課題である。

- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1年生 5.4 ポイント・実現度 77%，2年生 5.4 ポイント・実現度 77%，3年生 4.9 ポイント・実現度 70% と比較的高い数値であった。特に 1.2 年生の数値が上昇したのは、3年生の引退を受けて、自分たちが中心に活動したことの表れであると分析できる。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「部活動が盛んであること」の項目で、1年生 4.4 ポイント・実現度 63%，2年生 4.4 ポイント・実現度 63%，3年生 4.3 ポイント・実現度 61% と、生徒に比べて、やや低い数値であったが、1年生の保護者の数値は上昇した。部活動でのやりがいや楽しかったことが家庭での話題になっていることを保護者に聞くことが増えてきているのも、この数値の上昇の結果であると考える。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「を目指す子ども像『挨拶ができる』について」の項目で、1年生 4.9 ポイント・実現度 70%，2年生 5.3 ポイント・実現度 76%，3年生 5.4 ポイント・実現度 77% と、保護者評価は比較的高い数値であった。小中連携で取り組む挨拶について、1年間を通して、小中合同で挨拶運動に取り組んできた成果が表ってきた。次年度も引き続き、挨拶運動に取り組んでいきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・学年の枠にとらわれず、来年度も全ての生徒に、全ての教職員で関わっていくスタイルを貫くことが重要である。そのためには、授業はもとより、各種行事や日常生活でも、生徒の様子をしっかりと観察し、情報共有を行う。
- ・「挨拶ができる」と実感する保護者の方が増えている現状であるからこそ、生徒たちが「心通う挨拶」ができるように、更に、焼酎連携した挨拶運動、PTA と連携した取組を進めていく。
- ・睡眠時間の確保のため、基本的な生活習慣の定着に向けて、家庭との連携や協力を強めていく。
- ・健康教育の充実に向け、学校・家庭・地域が連携し、子供たちの健全育成に関する取組を推進していく。

学校関係者による意見・支援策

- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校関係者評価会議はできなかったが、中止の連絡をする中や、地域での顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや行事の様子を伝えると、学校に行くと、生徒たちが気持ちよく挨拶をしてくれる、素晴らしいことである、とご意見を頂いた。引き続き、努力してくださいとご助言を頂いた。

(4) 学校独自の取組

重点目標

伝統文化教育の充実及び少人数を活かした教育の実践

具体的な取組

- ・各種伝統文化体験
(和菓子作り体験、組紐作り体験、茶道体験、西陣織着付け体験、陶芸教室、百人一首大会など)
- ・体育祭などの縦割り集団の活用
- ・少人数クラスの編成（3年生による三分割授業）<社会・数学・英語>

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・学校評価保護者アンケート
- ・学校評価生徒アンケート
- ・文化体験後のアンケート

中間評価

各種指標結果

- ・学校評価生徒アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値, 3.5 ポイントが中間, 1 ポイントが最小値）において、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は、1 年生 4.1 ポイント・実現度 59%, 2 年生 4.6 ポイント・実現度 66%, 3 年生 4.8 ポイント・実現度 69% と、伝統文化の取り組みを重ねて、学年が上がるに比例し実現度が上昇している。
- ・学校評価保護者アンケート（各項目の実現度：7 ポイントが最大値, 3.5 ポイントが中間, 1 ポイントが最小値）において、「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は、1 年生 5.3 ポイント・実現度 76%, 2 年生 5.2 ポイント・実現度 74%, 3 年生 5.4 ポイント・実現度 77% と、高い数値であった。
- ・体育祭の感想文で、3 年生や 2 年生の一生懸命に取り組む姿に、とても感動したと書いている生徒が多数おり、他者との繋がりの中で豊かな心を育むことができている。
- ・学校評価生徒アンケートにおいて、「鳥丸中学校は人数が少ない学校ですが、その良さを活かした取り組みをすること」の項目は、1 年生 5.1 ポイント・実現度 73%, 2 年生 5.7 ポイント・実現度 81%, 3 年生 5.9 ポイント・実現度 84% と、学年が上がるにつれて高い数値になっている。
- ・学校評価保護者アンケートにおいて、「小規模校の利点を最大限に生かした取り組みを行うこと」の項目は、1 年生 5.4 ポイント・実現度 77%, 2 年生 5.1 ポイント・実現度 73%, 3 年生 5.3 ポイント・実現度 76% と、比較的高い数値である。

自己評価	<h3>分析（成果と課題）</h3> <ul style="list-style-type: none">・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の結果として、学年が進むにつれて、地域の伝統文化に触れ、地域に愛着を感じていることが窺える。本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを更に生徒の意識に深めていくように取り組みを続けていく。・地域の特性を活かした伝統文化教育は本校の特色である。今後も伝統文化教育に関わる取組は継続していく必要がある。しかし、行事による授業時間確保が困難な場合に備え、行事の精選も課題となってくる。・体育祭の縦割りの取り組みなど、学年の垣根を越えて、生徒同士が温かい交流を深めている。鳥丸中学校独自の温かい校風を継続できるように、今後も努力を続けていく。・「鳥丸中学校は人数が少ない学校ですが、その良さを活かした取り組みをすること」の項目では、生徒アンケートで高い数値が出ている。全校でのレクレーションや学校行事において、学校全体の一体感を味わえている成果である。また、少人数クラスの編成で授業をする（3 年生による三分割授業）社会、数学、英語での取り組みも、少人数の良さを活かした取り組みを実感できている要因である。
	<h3>分析を踏まえた取組の改善</h3> <ul style="list-style-type: none">・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」について、生徒や保護者向けに、学校での様々な取組や行事を、ホームページや学校だよりを通して紹介し、伝統文化に触れ、伝統あるこの地域に愛着を深めていくようにする。

	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・各種伝統文化体験のアンケートや取り組みの様子
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校行事を通して、上級生が下級生の良い見本となり、学校全体に温かい雰囲気が作られている。小規模校の利点を活かして、今後も豊かな心の育成に努めていくこと。 ・「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目で、生徒評価がやや低い数値であるが、鳥丸中学校では、他校では味わえない多くの伝統文化学習体験を行っているので、今後、本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを更に生徒の意識に深めていくようにすることが課題である。 ・小規模校の利点を生かした取り組みを、鳥丸中学校の強みと捉えて更に充実させていくこと。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価保護者アンケート ・学校評価生徒アンケート ・各種伝統文化体験のアンケートや取り組みの様子
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評価生徒アンケートにおいて、「地域の伝統文化を積極的に活用すること」の項目は、1年生 4.3 ポイント・実現度 61%，2年生 5.2 ポイント・実現度 74%，3年生 5.4 ポイント・実現度 77%と、伝統文化の取り組みを重ねて、前期より後期の方が上昇した。特に学年が上がるに比例し上昇している。 ・学校評価保護者アンケートにおいて、「地域の伝統的・文化的な環境を活用すること」の項目は、1年生 5.5 ポイント・実現度 79%，2年生 5.1 ポイント・実現度 73%，3年生 5.3 ポイント・実現度 76%と、高い数値であった。特に1年生保護者は、前期 76%から後期 79%に上昇した。 ・伝統文化学習を通して、地域の方に指導を受ける中で、地域の文化や環境を誇りと捉え、地域を愛する心が育ってきている。次年度も、伝統文化学習に力を注ぎ、地域とのつながり、伝統文化とのつながりを強化していきたい。 ・学校評価生徒アンケートにおいて、「鳥丸中学校は人数が少ない学校ですが、その良さを活かした取り組みをすること」の項目は、1年生 5.1 ポイント・実現度 73%，2年生 5.1 ポイント・実現度 73%，3年生 5.8 ポイント・実現度 83%と、高い数値になっている。 ・学校評価保護者アンケートにおいて、「小規模校の利点を最大限に生かした取り組みを行うこと」の項目は、1年生 5.3 ポイント・実現度 76%，2年生 5.2 ポイント・実現度 74%，3年生 5.6 ポイント・実現度 80%と、比較的高い数値である。学校行事や学年の取組を重ねて、数値が上昇してきたことが成果である。 ・1年間の授業や学校での取組、学校行事を経て、五つの心（素直・感謝・反省・互譲・奉仕）が心の目標として生徒たちにも浸透してきた。来年度も鳥丸中学校の合言葉、伝統として、誇りを持てるようにしていきたい。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 「地域の伝統文化を積極的に活用すること」について、生徒や保護者向けに、学校での様々な取組や行事を、ホームページや学校だよりを通して紹介し、伝統文化に触れ、伝統あるこの地域に愛着を深めていけるようにする。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校関係者評価会議はできなかつたが、中止の連絡をする中や、地域での顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや行事の様子を伝えると、地域、保護者、PTAが協力し、学校とともに生徒の育成に努めていくことが重要であるとご意見を頂いた。 生徒会活動や文化祭、体育祭といった学校行事を通して、校全体に温かい雰囲気が作られている。小規模校の利点を活かして、今後も豊かな心の育成に努めていくことと、引き続き、本校の特徴である伝統文化と地域との繋がりを生徒の意識に深めていき、中学生が地域行事に参加できることとのご意見を頂いた。

(5) 業務改善・教職員の働き方改革について

	<p>重点目標</p> <ul style="list-style-type: none"> 教職員一人一人が勤務時間を意識し、会議及び校務の効率化を図り、自らの働き方に関する意識改革を進める。 <p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校行事の精選、会議の効率化。 校務分掌の役割分担と適材適所への配置。 センターサーバへのデータ集約による校務の効率化。 <p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 出退勤管理システムの記録 管理職による個別面談（勤務全般に関する面談に含む）
--	--

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 出退勤管理システムの記録では、4月と5月に、時間外勤務が80時間を越える教職員が、わずかに存在したが、6月以降はいない。 管理職による個別面談及び勤務の様子から見て、教職員一人一人が勤務時間を意識し、会議及び校務の効率化を図るようになってきている。
自己評価	<p>分析（成果と課題）</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間外勤務が80時間を越える教職員が、6月以降いないことは成果である。 教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的に業務を進めていることは成果である。 時間外勤務が80時間を越える教職員は現在いない。しかし、7月・8月を除くと、全教職員の平均値は50時間程度の時間外勤務となっている。今後、働き方改革を進める上で課題といえる。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議の効率化、分掌での仕事の役割分担を進め、適材適所で力が発揮できるようにして、時間外勤務の削減を進めていく。 会議資料や分掌での資料は、センターサーバに共有し、はじめから資料を作成する手間を省けるように、データ管理をする。 <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 出退勤管理システムの記録 管理職による個別面談及び勤務の様子
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 丁寧に対応し、しっかりと生徒を見て指導しているのは評価できる。社会的に教職員の超過勤務が問題となっているので、過度な負担にならないように働き方改革も進めていくこと。

最終評価

	<p>中間評価時に設定した各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 出退勤管理システムの記録 管理職による個別面談及び勤務の様子
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 出退勤管理システムの記録では、6月以降、時間外勤務が80時間を越える教職員はいない。 管理職による個別面談及び勤務の様子から見て、教職員一人一人が勤務時間を意識し、会議及び校務の効率化を図るようになってきている。 教職員一人一人が勤務時間を意識し、計画的に業務を進めていることは成果である。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 会議の効率化、分掌での仕事の役割分担を進め、適材適所で力が発揮できるようにして、時間外勤務の削減を進めていく。 会議資料や分掌での資料は、センターサーバに共有し、はじめから資料を作成する手間を省けるように、データ管理をする。
学校 関係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルス感染拡大防止のため、学校関係者評価会議はできなかったが、中止の連絡をする中や、地域での顔を合わせる場面で、本校の学習の取り組みや行事の様子を伝えると、教職員が丁寧に対応し、しっかりと生徒を見て指導しているのは評価できるので、超過勤務は社会的な問題となっているので、教育活動が教職員の過度な負担にならないように、働き方改革も進めてくださいとご助言をいただいた。